

多自然川づくり取り組み事例

タイトル	円山ウブシ川における魚類生息環境改善施設の整備効果について		
水系/河川名	天塩川水系/円山ウブシ川	河川分類	中小河川
河川の流域面積	18.8km <sup>2</sup>	整備計画流量	80m <sup>3</sup> /s (W=1/1070)
セグメント	2		
事業	環境整備	事業開始年度	平成24年度
目標設定	定性的	段階	C(モニタリング・評価時)
課題・目的(主な)	縦断的連続性の保全・再生・創出、瀬・淵の保全・再生・創出		
工法(主な)	掘削(低水路)、魚道、落差工、帯工等の整備		
配慮事項(主な)	委員会、協議会等の開催		

背景・課題、目標設定

<背景>

天塩川の下流域にある天塩町円山地区では、昭和27年、昭和50年に大規模な洪水被害の記録がある。この地区で天塩川に合流する一次支川である円山ウブシ川には、天塩川本川の背水影響により支川が氾濫することを防ぐことなどを目的として、合流部付近に落差工が設置された。

しかし、既往の落差工は落差が大きいため、サクラマス(ヤマメ)など回遊魚の移動連続性を妨げていた。また、落差工の下流部は、河道の固定化により河床低下が進行し、河岸が切り立ち水際植生が生育困難な単調な河道形状であり、小型魚類の生息・越冬場所が不足していた。

<課題(解決策)>

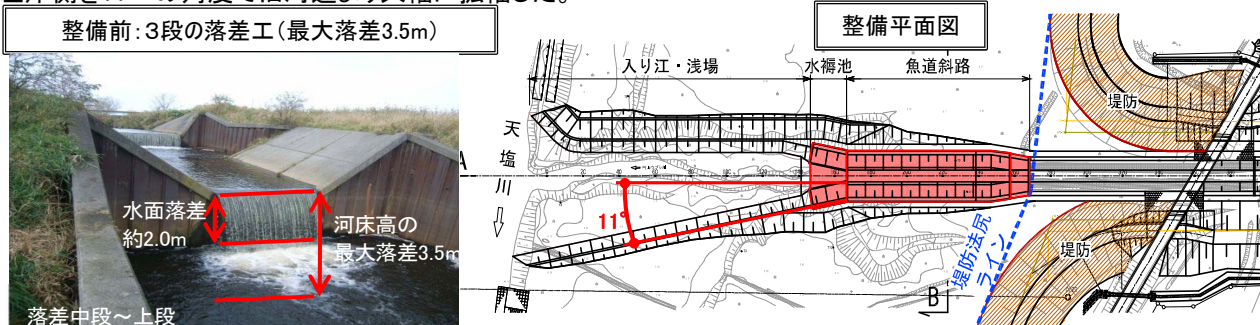
- ・落差工における魚類等の移動連続性確保(魚道の設置)
- ・落差工下流区間における水際植生の再生・回復(落差工下流区間の河道拡幅による浅場造成)

<目標設定>

- ・中上流域へのサクラマス遡上、産卵
- ・下流区間での水際植生回復と魚種の増加

取り組み内容・対策例

- ・魚道は低段の落差が連続する斜路形式の全断面型とし、落差工下流部の入り江・浅場は本川下流側に向かって左岸側を11°の角度で旧河道より大幅に拡幅した。



モニタリング結果、アピールポイント、今後の対応方針

- ・魚道下流部は拡幅後自然な土砂の堆積により蛇行した滞筋となり、氾濫原には草本植生が成立した
- ・整備直後から中上流域へサクラマスが遡上、産卵し今年度は最上流部まで計28箇所産卵床を確認した
- ・砂礫が堆積した中洲、寄州の水衝部はヤツメウナギ幼生の生息環境となり、多数の生息が確認される
- ・河岸部にはヤナギ類樹木が定着しつつあり、今後河道の固定化を招かないか注視する必要がある



備考

- ・整備直後から中上流域へサクラマスが遡上、産卵し、今年度は最上流部まで計28箇所産卵床を確認した